

地域中核病院再整備事業について

- 1 横浜労災病院再整備事業について ……2
- 2 その他 ……6

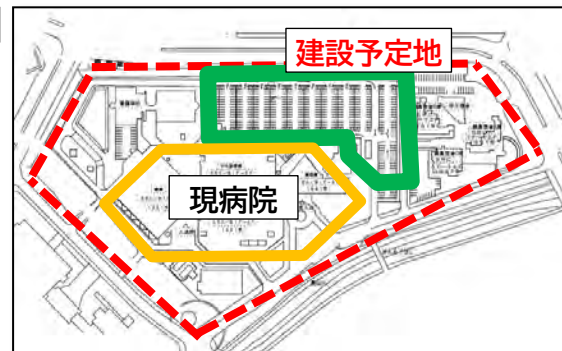
地域中核病院である横浜労災病院は、平成3年の開院から35年が経過し、病院施設・設備全体の老朽化が進んでおり、今後も市北東部地域の政策的医療の基幹的な役割を担い続けるためには再整備が必要となっています。

令和6年に再整備に関する基本協定を締結し支援を行っており、この度、横浜労災病院において、新病院基本計画を策定しましたので報告します。

1 (1) 基本計画の概要

- 現病院敷地内の駐車場に免震構造の新病院を建設し、災害拠点病院として災害に強い病院とします。
- 感染症対応の強化及びプライバシーに配慮した療養環境の確保のため、現在115床ある個室を222床とし、個室率の向上を図ります。
- 救急搬送ルート of 複線化を図るとともに、救急専用入口・専用エレベーターを設置し、救命救急センターとして救急受入機能を強化します。
- 小児・周産期、がんなどの政策的医療についても、市の小児救急拠点病院及び産科拠点病院、また国指定の地域がん診療連携拠点病院として、引き続き地域の中核病院としての役割を着実に担っていきます。

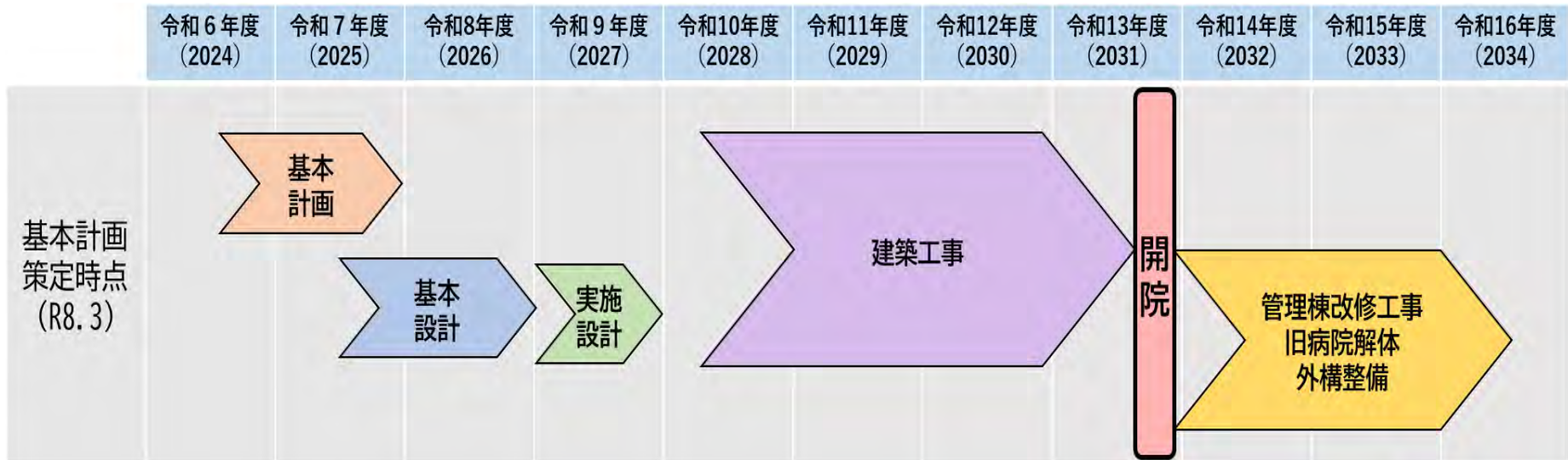
【位置図】



	現病院	新病院
所在地	港北区小机町3211	
病床数	650床	650床
個室数 (率)	115床 (17.7%)	222床 (34.2%)

1 (2) 開院までの想定スケジュール

基本構想策定時点（令和5年5月）で令和12年度中としていた開院予定時期について、救急受入機能の強化を目的とした救急搬送ルートの新線化に伴う工事の実施及び、建設業界における時間外労働規制の見直しに伴う工期の延伸等により、**令和13年度中の開院**を予定しています。



※地域に対しては、自治会、町内会の定例会等を通して、基本計画の概要及び開院までの想定スケジュールについて説明します。

①横浜労災病院の概要

本市では、市立3病院及び横浜市立大学2病院に加え、市内6方面の基幹的な役割を担う地域中核病院の整備を進めてきました。地域中核病院である横浜労災病院は、独立行政法人労働者健康安全機構が整備し運営する方式で、平成3年に新横浜で開院し、市北東部地域において、高度急性期・急性期医療の中心的役割を果たすとともに、救急や災害時医療等の政策的医療を担っています。

②これまでの主な経過

令和5年5月	労災病院において「新病院事業 基本構想 」を策定し、現病院敷地内での建替を計画
令和6年2月	健康福祉・医療委員会にて新病院事業 基本構想の策定及び再整備にかかる支援 について報告
令和6年3月	横浜市と労働者健康安全機構で再整備に関する基本協定書を締結
令和8年3月	労災病院において「横浜労災病院設計業務 基本計画書 」を策定

③再整備に対する支援措置

	支援内容
用地	無償貸付
設計・工事監理費	1/2
建設費※	1/10

※国の公立病院等に対する地方財政措置の基準単価に合わせた上限あり

済生会横浜市南部病院再整備事業については、令和6年9月の健康福祉・医療委員会において、当初計画の令和10年度中の開院予定時期を見直すと報告しましたが、現在、同病院にて策定済みの基本構想及び基本計画の改訂に取り組んでいます。

新病院の具体的な機能や開院時期については、改訂後に改めて報告します。

【これまでの主な経過】

令和2年3月	健康福祉・医療委員会にて移転地の決定について報告 横浜市と済生会で再整備に関する基本協定書を締結
令和3年12月	健康福祉・医療委員会にて再整備基本計画の策定及び旧港南工場の解体と新病院建設の一体的実施について報告
令和6年2月	旧港南工場の解体と新病院の建設工事までを一体的に実施する事業者選定の入札公告に応じる事業者がなく不調となる
令和6年9月	健康福祉・医療委員会にて令和10年度中の開院予定時期を見直すことについて報告

【新旧病院の位置図】

